

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200446		
法人名	NPO法人 不知火福祉会		
事業所名	グループホーム白梅の里		
所在地	熊本県宇城市不知火町亀松543		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	平成22年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本3丁目3-13-205
訪問調査日	平成21年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

チームカンファレンス、又ミーティングにより職員又御家族の方々からの意向、要望をお伺いし職員で協議共有し、御家族に十分な説明を行い理解を得る重要性とより良い支援を行う事ができるよう、又急変時にも落ち着いた対応ができるよう看護職員を中心として学習し、知識を深める事が必要だと考えている。今後も主治医に日頃の御利用者の状態を報告し、必要時には何でも相談し、又アドバイスを受け御利用者の健康管理に努めていき連携を図っていきたい。外出、小旅行など御利用者の要望に対応できるよう御家族と相談しながら同意を得て実行していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時より地域の一員としてリサイクル活動や老人クラブ活動等に参加し、入居者と共に交流を図り認知症ケア啓発の一環としている。年間テーマのもと開催している運営推進会議は、消防署、警察署等と一体となって災害対策や徘徊・SOSネットワークの意見交換等効果的な会議としてホーム運営に反映させている。入居者の平均年齢の高さ・疾病等に訪問看護を採用したり、協力医療機関と連携を図り、外出支援が減少傾向のなか、塗り絵やパズル・書道等により認知症進行防止としたり、身体機能低下防止に軽体操等ホーム内での活動を充実させている。家族には毎月「白梅の里便り」や手紙により詳細な現状報告、往診日等の連絡、家族会・訪問時の意見の徴集等“報告・連絡・相談”の徹底につとめ、信頼関係の構築に前向きに取り組んでいる。職員はチームワーク良く、“一日一回笑いを！”を合言葉に入居者に寄添い、和やかな日常生活を支援しており、今後も継続した職員によるケアが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	立場や経験に関わらず、パート職員も含め、職員一人ひとりが、日々利用者に関わる時共有し取り組んでいる。	“一期一会の精神を持って、寄添いのケアを大切に”等の法人理念のもと、“5つの心がけ”や介護の姿勢として5項目を掲げ、日々のミーティングや毎月の勉強会の中で意識向上を図り、認知症の深い理解によりケアに反映すべく努力している。理念や介護姿勢を常に確認しながら、個々のニーズや家族の不安等に応じることを心かげたケアに真摯に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	リサイクル活動行事等を通じて、地域の方々との交流を図り、参加行いふれ合う機会に努めている。	隣保組に加入し、地区の活動であるリサイクル活動や老人会のエコ活動の一環である溝掃除・花植え等地域の一員として参加したり、老人会の催し物に入居者と一緒に参加し認知症ケア啓発の機会としている。幼稚園・小中学校、高校生のボランティアとしての訪問等もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議により、民生委員の方々と接する事により、認知症への理解を深めてもらうよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の運営推進会議を開き、毎回検討事項を話し合い、経過を報告し、意見をもらうようにしサービス向上に努めている。	運営推進会議は年間テーマを立て、防災対策では消防署、徘徊・SOSネットワーク作り時には警察署からの講師としての参加等効果的・有意義に2ヶ月毎に開催している。全家族に案内し、参加の無い家族には訪問時に説明し、重点項目は毎月発行している“白梅の里便り”に記載し報告している。徘徊・SOSネットワーク作りとして、近隣住民との日常的な会話の中で声かけをお願いしたり、ガソリンスタンドや交番・病院等へ協力要請し、徘徊対策として家族に協力をお願いする等サービス改善に活かしている。	定例化した運営推進会議は地域包括支援センターや地域の代表は毎回参加されており、行政からの出席も毎回得られることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営や、現場の実情を伝える機会を作り家族の意見等を伺いながら、課題解決に直面的に話し合い対応している。	職員の勤務体制、家族からの苦情、困難事例等現場の実情を報告し、問題解決に向け行政のアドバイスをホーム運営に活かす努力をしている。また、運営上の問題は理事長が出向き相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する職員の共有認識を図り、人権を守る事がケアの基本であるという認識を持ち、ケアに取り組んでいる。	虐待・身体拘束の排除のマニュアルのもと、定期的な勉強会や外部研修に参加し、身体拘束の内容とその弊害の意義の理解に努めており、拘束の無いケアに取り組んでいる。玄関も日中は施錠も無く、所在確認や入居者のその日の体調や気分により特に見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、知識を習得し全職員に周知する事で、ケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、勉強会を開き、職員の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族の話し合い、意見を聞き契約・同意書等の見直しを行い、不安・疑問に対し説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情について検討し、県・市、NPO法人、御家族・職員の貴重な意見を聞き、前向きに受け止め反映に結び付けている。	利用者の話に常に耳を傾けており、「夜はゆっくりと眠りたいから居室を換えて欲しい」との希望に即時話し合い居室の移動を行っている。家族にはホームでのケア対応を全て家族に話す体制、透明化を図っている。家族会での意見交換及び家族会終了後の個別面談も行っており、家族からは様々な意見や要望が出されている。出された問題や課題を前向きに検討し、ホーム運営に活かす様努力をしている。また、今年度は苦情処理対応の外部研修にも参加している。	家族会や運営推進会議、ホーム便り等を通じて、ホームでの日常生活や現状を発信し、家族との関係構築に努力している。家族の苦情を前向きに受け止めており、今後、家族との良好な関係が継続されることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勤務の中で職員の意見を聞く機会を設け、意見が出しやすいよう取り組んでいる。	毎月1回ミーティングを開催し、困難事例等の意見交換を行い職員の意見をケアに活かす他、ユニット毎の勉強会は職員がテーマを決めて開催している。管理者は勤務シフト調整等職員の希望を優先し、処遇問題は管理者を通じて代表者へ申し出ている。	職員の意見や提案が活かされることは職員の意識向上や離職防止につながるものと思われる。今後も職員との対話により、意見や提案がホーム運営に活かされ、ケアサービスの向上につながることを期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務の中で、心配事、不安がないよう環境・条件において相談等の配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や、勉強会等に参加行い、全職員が共有できるよう、報告する機会を作り取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会議に参加する事により、他施設との情報等を行い、サービスの質の向上に努めている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活状態を把握しながら、日頃心配事や困っている事を受け止め日々の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内見学を含め面会時など、ゆっくり時間を作り、会話に努め気になる事・要望等あれば、電話・書面にて伺いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す事により、関係を築きサービスに努めていくよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	苦しみ、不安、喜びを知る事に努め、共に支え合える関係作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の思い、気持ちになり、暮らしの中で気付き、本人と一緒に支える為、同じような思いで支援するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理容、美容院の利用を続けている。利用者、家族との墓参り、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	馴染みの理・美容院の利用、墓参、「同級生に会いたい」と入居者の言葉に家族が同行される等、行きたい場所・人の要望に、家族の協力により支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間、気の合う者同士で過ごせる場面作りを配慮し、御利用者同士がうまくいく関係作りに取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の関係を断らない取組みは不十分であり、その後御本人や御家族の健康状態を気遣う等配慮がまだ十分とは言えない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で御利用者に声掛けし記録するようにしている。又御本人の意向を重視し困難な御利用者の場合御家族と相談しながら計画し検討している。	日々の関わりの中で声をかけ、思いや意向を記録に残し職員間の情報の共有化を図り、意思表示・意思疎通が困難な方は家族に相談しながら計画を立て支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに加え、面会時に御家族から聞き取ったり、又以前自宅で使用していた家具や愛着のある品を居室に置き工夫されている。整理整頓ができない場合職員が整理し本人に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し御利用者一人ひとりの生活リズムを理解し職員間で協議し御利用者により良い生活が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、又職員に意見を聞き工夫に努めている。	アセスメント時や面会時に家族に要望やニーズを聞き、毎月のモニタリング、3ヶ月毎に評価を行い、レベル低下や家族の意向の変化にアセスメントしながらプランを変更している。サービス内容は具体的・個別的に作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づき、御利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員の共有、認識に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の要望及び御家族の面会時、日々の生活状況を報告し、要望に答えられるよう支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での暮らしを続けられるよう老人会、警察、民生委員方々との連絡・連携図れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の様子、変化を伝えられるよう、家族の要望伺い、定期に往診、緊急時対応出来るよう密に関わり合いを持つようにしている。	協力医療機関を確保し家族と協議し通院から、2週間に1回若しくは家族の希望により月1回の定期往診へ変更している。又、他科受診等必要に応じ家族も診療に同行している。受診内容を“病院受診の報告書”として個別に記録し、家族と共有しながら入居者を支えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡・連携が図れるよう、日頃から密に接し、気付いた事があれば、連絡行い早急な医療の対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族・医療機関、三者一体となり連携を取りながら、円滑に支援が出来るよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人・御家族の意向を踏まえ、医師、職員、医療機関との連絡をとり意思を確認しながら取り組んでいる。	入居時にホームとしての支援方法(医療行為が出来ないこと)を説明し、医療行為の必要性を退居の一応の目安としているが、本人・家族の意向で入院中も居室を確保しホームでの生活の継続を支援している。24時間生活シートを活用し、遠方の家族には電子メールで状況報告する等家族や医療機関との連携を図りながら、高齢化・重度化の入居者の“今”の生活を支えている。	家族から「ホームで最期までお願いしたい。」との希望もあり、看護職員の配置や看取りの経験もある。平均年齢も90歳以上であり、ホームで対応出来ること・出来ないこと等重度化・看取り指針の明文化を図り、今後も家族との話し合いを重ねていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ケースの想定をしながら、勉強会を通じ、日頃から緊急時への意識付け、認識が出来るよう心構えを持つようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力をえて、避難訓練等を定期的に行っている。	消防署の協力により、老人クラブ・区長・隣の住民等の参加による年2回の避難訓練を実施している。また、運営推進会議を活用し消防署より講師を招き、地元の区長・民生委員・家族と共に防災に関する認識を深め、地域へ協力を依頼している。また、台風時、地域の高齢者に避難場所として開放している。	

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者のプライバシー確保を基本的に徹底している。自尊心等尊重しながら介護や言葉かけ等精進している。	入居者の目線に合わせた介護を心がけ、管理者は職員に注意・アドバイスをしながら、個々の人格を尊重した言葉かけやケアを行っている。記録物・書類は事務所にて保管し、漏洩防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者の表情や動作に注意し御利用者に合わせた声掛けをし、出来るだけ御本人の思いや希望を表示できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながら御利用者のペースにそって見守りながら、一緒に生活全体をサポートしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の希望に添い、散髪や衣類の選択整容への支援を行っている。なじみの理容、美容室への支援を行っている。又好みの衣類を選んで頂き汚れたら声掛けし交換等身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューについては、御利用者の要望を受け入れながら考慮し、食事準備等を一緒に行っている。	嗜好調査を実施し、入居者の要望を反映した献立を作成している。入居者自ら皮むきした果、自家栽培の野菜は収穫の喜びや季節感となり、入居者も下膳や食器洗い・テーブル拭き等自分の仕事として自然発生的に参加されている。中庭にテーブルを出し、全員で弁当を広げる等工夫を凝らした食への取り組みもあり、家族へもメニューを提示し、家族の要望(果物等)も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康を維持する上で、摂取量は観察し記録している。一人一人に応じた工夫をし食事水分量の確保に努めている。栄養バランスに関しては、職員が献立を作り、偏った食事にならないよう留意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、就寝前の入れ歯の洗浄とうがい薬でのがいいで口腔内の清潔を保てるよう支援している。万一歯科治療が必要となられた場合は御家族と相談し歯科受診の支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間・習慣を把握しトイレの声掛け誘導をし、排泄への催しを行っている。一人一人のサインを把握すると共に自尊心を傷付けないよう声掛けにも配慮し、気持ちよく排泄して頂けるよう努めている。	個々の排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っている。日々のは排便確認を記録し、食物繊維の摂取やラジオ体操、レクレーションにより自力での排便や自尿につなげ、下剤に頼らない排泄を支援している。訪問看護の採用や職員の食事前後のチェックにより便意や尿意自覚が出てきた入居者もあり、自立や自信回復へとつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認は、毎日記録している。便秘予防に向けて、食物繊維質の多い物を取り入れ、水分補給適度な運動への促しをしている。下剤使用については、看護師の職員や主治医と相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、体調等把握し、状態において考慮している。意向を伺いながらなるべく、ゆっくりとした環境の中で楽しみをもって入られるよう工夫している。	バイタルチェックにより入浴可否を見極め、毎日午後からの入浴であるが、夏場は発汗状態により随時シャワーにて対応している。冬場の寒い時期には熱い湯を張り、浴室を温めて入浴される等こだわりをもって入浴される方もおられ、ゆっくりと楽しんで入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者の体調及び日中の疲れ具合又生活習慣等を配慮し、夜間眠れるように日中の過ごし方を工夫し、夜間への安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員管理としており、指示された時間に服薬の支援を行っている。薬の把握できるよう処方箋で確認できるよう保管している。服薬による症状の変化の確認も主治医と連携をとりながら行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、ホーム内での生活様子等を考慮しながら楽しみのある生活が出来るよう支援している。レクリエーション等楽しみをその日の気分で自由に声掛けながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御利用者の体調を考慮し、近隣の神社までの散歩には出掛けている。	新型インフルエンザ対策として外出は控えている現状であり、入居者の体調や天候により近隣の神社まで散歩に出かけたり、庭の草取りや野菜の収穫を外気浴の一環としている。入居者の希望である美術館や図書館への外出は家族会で同意を得ており、計画を立てている。また、買い物ツアーや小旅行等も家族に依頼する意向である。	家族の協力なしには外出もままならない状態にあり、今後、家族の理解を得て協力を依頼し、家族との外出の機会が多くなることが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時自分で買い物がある場合、自分で支払って頂けるよう配慮している。事務所金庫で預り金を保管しているので、御家族了解のもといつでも使いたいとき使う事が可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望必要に応じて自身で電話をかけられたり、職員が支援している。ハガキや手紙が書けるよう購入支援している。御家族や大切な方の同意のもと電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって、模様替えをしている。真夏時には、日よけ、風鈴など活用し、涼しく生活できるよう工夫している。季節の花緑などは、かかさないようにしている。浴室はしょうぶ湯、ゆず湯他季節の香りを楽しんで頂けるよう配慮している。	運営者自ら設計したホームは掃除が行き届き、清潔に保たれている。事務室を中心にユニット毎の玄関は整理整頓され、各ユニット毎に入居者の作品が掲示され、多目的ホール・会議室・家族室・中庭等ゆとりある作りである。季節に応じた模様替えや四季の花、菜園等も季節感を出している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間である食堂や廊下にはソファを配置し個々自由に過ごされる工夫をしている。テレビや好きな音楽を視聴したり、手芸をされるスペース等作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、テレビなど配置し自分のゆっくりした時間を過ごせるよう工夫している。好きな植物など居室で育て、花が咲くのを楽しみにされている。	洗面台・ベッド・クロゼットが設置された居室は、使い慣れた家具、テレビ、家族写真等が持ち込まれている。居室で趣味を継続したり、テレビを見たりと自分の時間を楽しんでいる。一人ひとりが居心地よく生活できるよう、家族の協力を得て支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に応じて対応し、自立を意識した工夫をしている。安全確保にも努め身体機能に合わせ生活の場として配慮し見守りをを行い支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に職員、勉強会にて理念を再確認し、日々理念に向け取り組むよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、老人会の行事、輪投げ大会など声かけして頂き、御利用者の方も参加して頂く様努めている。幼稚園、小、中学校、高校生の方々にボランティアの交流を図れる様努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の行事に参加し、事業所のパンフレットと資料等を説明し少しでも認知症の方を理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域への取り組みの不十分な所のアドバイスを受けると共に学び合える関係作りを心がけている。貴重なアドバイスは、実行へ移すようサービス向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難な事例や当事業所でのサービスの向上へのアドバイスを頂く等のやりとりを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員がセミナー等参加し資料を勉強会時配布し理解してもらうよう努めている。玄関施錠は、早出勤時間開けてあるか確認し身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、セミナーに参加し、定期的勉強会で報告し理解を深め高齢虐待防止に努めている。又新聞等取り上げられた内容を回覧し職員に伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は各セミナーに参加し知識を深め、円滑に活用支援ができるよう取り組んでいる。資料等勉強会で配布し伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書に基づき利用者と家族に十分な説明を行い、又不安、疑問点などについても尋ね理解納得を図った上で入居して頂いている。解約の際も同様で理解納得のもと同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱の設置をすると共に、気軽に要望を頂ける様家族にも説明している。又面会時会話の中で、要望、意見など聞き職員勉強会で公表し改善に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期勉強会の中で困難な事例等に対する意見は話し合い即対応できる所は反映をさせている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の取り組み実績について職能評価をしている。代表者も職場に顔を出し、職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ブロック勉強会、勉強会へのお知らせを各職員に通達している。全職員がバランスよく出席でき質の向上のため、勉強会の時、研修内容を報告している。又、研修内容は復命報告書に記述している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会議研修等で他事業所の取り組みを開いたり、当事業所の取り組みの情報交換をしているサービスの質を向上させる為、他事業所の取り組みを参考にし利点を活用している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時から御本人の生活状況・不安・思いを傾聴し、なじみの関係を作っている。ご家族から情報を含め、理解するよう努め常日頃より声かけに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内見学を含め面会時など、ゆっくり時間を作り、会話に努め気になる事・要望等あれば、電話・書面にて伺いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容、入居希望者の状態を聴き本人との面談を行い見極めている。他のサービス利用が望ましいと思われる時は理解されるよう説明する対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で出来る事は共に行っている。人の役に立つと言う事を実感して頂けるよう支援し、共有した時間をもてるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度里便りで暮しぶりや状況を知らせ、面会時にも状態報告し、把握してもらえるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者から行きたい所、逢いたい人の要望があれば、それを介護計画に取り入れ実践するよう努めているが業務の都合上実践できない事が少ない		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者同士の関係を把握し、仲良く楽しく生活できるよう支援している。些細なトラブルも職員仲介し、御利用者同士支え合う光景もあり、導重し合う心の一つとして見守っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の関係を断らない取組みは不十分であり、その後ご本人や御家族の健康状態を気遣う等配慮がまだ十分とは言えない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご利用者に声掛けし記録するようにしている。又ご本人の意向を重視し困難なご利用者の場合御家族と相談しながら計画し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに加え、面会時にご家族から聞き取ったり又以前自宅で使用していた家具や愛着のある品を居室に置き工夫されている。整理整頓ができない場合職員が整理し本人に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用しご利用者一人一人の生活リズムを理解し職員間で協議しご利用者により良い生活が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、御家族より心身に関する事や日常生活の在り方、望むことなど聞きプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画通り支援ができているか、ご利用者の状況変化など毎月モニタリング見直し評価している。変化が生じた場合、御家族・主治医と相談協議し、新たな介護計画を作成し、変化等の記録行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望及び御家族の面会時、日々の生活状況を報告し、要望に答えられるよう支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に出席して頂き、情報交換し協力を呼びかけている。又地域からのボランティア依頼等に協力、参加に努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の希望をご利用者御家族に伺い、医療機関の関係を密に行っている。又利用契約書時にその旨を説明し、同意を得て通院し介助を依頼している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を持つ職員を中心に、日々の健康管理に努めている。異変急変時には、主治医の診察、指示の上職員間医療機関との連携に努め対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、代表者、管理者及び職員が見舞うようにしている。又御家族病院の医師医療機関との連携状態状況を伺い話し合いを行いながら回復期又退院後も必要な支援が引き続き行なえるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めに御家族や主治医と相談し「グループホーム」の定義あり方を考慮し、十分な説明理解を得た上で、医療機関や介護福祉施設へ移って頂く事が多い		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成しており、身体状態の急変及び事故発生時にも慌てず確実に行動できるよう申し送りノート確認と対応の確認、又主治医と連携し全職員が支援できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて地域の連携が図れるよう努めている。年2回ホームでの避難訓練等実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のプライバシー確保を基本的に徹底している。自尊心等尊重しながら介護や言葉かけ等精進している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の表情や動作に注意しご利用者に合わせた声かけをし、出来るだけご本人の思いや希望を表示できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながらご利用者のペースにそって見守りながら、一緒に生活全体をサポートしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に添い、整髪や衣類の選択整容への支援を行なっている。なじみの理容、美容室への支援を行なっている。又好みの衣類を選んで頂き汚れたら声かけし交換など身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューについては、ご利用者の要望を受け入れながら考慮し、食事準備等を一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康を維持する上で、摂取量は観察し記録している。一人一人に応じた工夫をし食事水分量の確保に努めている。栄養バランスに関しては、職員が献立を作り、片寄った食事にならない様留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、就寝前の入れ歯の洗浄とうがい薬でのうがいで口腔内の清潔を保てるよう支援している。万一歯科治療が必要となられた場合は御家族と相談し歯科受診の支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間・習慣を把握しトイレの声掛け誘導をし、排泄への催しを行なっている。一人一人のサインを把握すると共に自尊心を傷つけないよう声かけにも配慮し、気持ちよく排泄して頂けるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認は、毎日記録している。便秘予防に向けて、食物繊維質の多い物を取り入れ、水分補給適度な運動への促しをしている。下剤使用については、看護師の職員や主治医と相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、午後から行う事が多いが、トイレの失敗など臨機応変に対応している。又ご利用者の意向を聞き入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の体調及び日中の疲れ具合又生活習慣等を配慮し、夜間眠れるように日中の過ごし方を工夫し、活性化に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員管理としており、指示された時間に服薬の支援を行なっている。薬の把握できるよう処方箋で確認できるよう保管している。服薬による症状の変化の確認も主治医と連携をとりながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、ホーム内での生活様子等を考慮しながら楽しみのある生活が出来るよう支援している。レクリエーション等楽しみをその日の気分で自由に声かけながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の体調を考慮し、近隣の神社までの散歩には出掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時自分で買い物がある場合、自分で支払って頂けるよう配慮している。事務所金庫で預り金を保管しているので、御家族了解のもといつでも使いたいとき使う事が可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望必要に応じて自身で電話をかけられたり、職員が支援している。はがきや手紙が書けるよう購入支援している。御家族や大切な方の同意のもと電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって、模様替えをしている。真夏時には、日よけ、風鈴など活用し、涼しく生活できるよう工夫している。季節の花緑などは、かかさないようにしている。浴室はしょうぶ湯、ゆず湯他季節の香りを楽しんで頂けるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間である食堂や廊下にはソファを配置し個々自由に過ごされる工夫をしている。テレビや好きな音楽を視聴したり、手芸をされるスペース等作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、テレビなど配置し自分のゆっくりした時間をすごせるよう工夫している。好きな植物など居室で育て、花が咲くのを楽しみにされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に応じて対応し、自立を意識した工夫をしている。安全確保にも努め身体機能に合わせ生活の場として配慮し見守りを行い支援に努めている。		